

ツムラグループのCSV

ツムラグループは、創業の精神とこの先の未来を見据え、究極的に成し遂げる事業の志であるパーパス「一人ひとりの、生きるに、活きる。」を掲げ、多様な社会を創り、一人ひとりが輝く未来の実現に向けて、天然物由来の医薬品・製商品の価値を広げる事業改革に取り組んでいます。自然の叡智を科学することで成長してきた当社グループにとって、持続可能な社会と自然環境に根差した共通価値の創造（CSV）に取り組むことこそ、競争優位性を高め、企業価値向上に寄与するものと捉えています。

すべてのステークホルダーと長期的な共通価値を創造するため、パーパスを起点に当社グループのCSVを整理し、マテリアリティ（重要課題）\*として特定しました。事業活動の結果として「天然物由来の医薬品・製商品による新たな価値の創出」と「伝統医薬である漢方製剤等の医薬品の持続的安定供給」を高い次元で成し遂げるために、未来を見据えた戦略的アプローチを設定し、経営環境の変化に対応しながら、独自の強みをさらに磨き上げていきます。

\* 詳細はP19「サステナビリティ」をご参照ください

社会との共通価値の創造

### 天然物由来の医薬品・製商品による新たな価値の創出

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031では、治療・未病・養生（予防）それぞれの領域で、一人ひとりのライフステージにあった天然物由来の医薬品・製商品の新しい価値の提供により、人々の健康に貢献し、心と身体、個人と社会が調和のとれた未来を目指しています。

**天然物由来の医薬品**

漢方製剤は天然物由来の医薬品で、複数の生薬で構成された数千種類もの低含量成分を有する多成分系複合製剤です。合成薬とは異なり、病名ではなく複数の症状に対応する適応症となっています。新たな疾患の症状に対応すべく作用機序解明とエビデンス構築を進めています。

**薬食同源の生薬を原料とする製商品**

医薬の原料である生薬のうち、食品の原料としても用いることができる生薬があることから、これらを原料とした薬食同源の健康食品・機能性食品として製商品を開発し、養生（予防）での健康維持・増進に貢献します。

### 伝統医薬である漢方製剤等の医薬品の持続的安定供給

1400年以上かけて日本の風土・気候・体質などにあわせて独自の発展を遂げた日本の伝統医学である「漢方医学」を後世に継承するため、企業使命「漢方医学と西洋医学の融合により世界で類のない最高の医療提供に貢献します」を果たします。安全性・有効性・均質性を追求した科学的な根拠に基づく漢方製剤を安定供給していきます。

**原料生薬の安定調達体制の構築**

漢方薬に使用される植物などの生薬は100種類以上あり、栽培・生育年数も1年～10年以上のものまで多種多様です。気候・土壌の影響を受けるため自生地などの適地を選定し、栽培技術を有する生産者とともに安心・安全・高品質を実現する生薬契約栽培により、計画的に安定調達を実行しています。

**安全性・有効性・均質性の追求**

科学的な根拠に基づく医薬品としての安全性・有効性・均質性を追求することで、医療用漢方製剤のリーディングカンパニーとして成長してきました。医療現場で積み重ねてきた信頼と実績、先端技術を駆使した研究力がツムラの競争力の源泉です。

マテリアリティ 戦略的アプローチ 現在の強み リスク・対応 参照ページ

マテリアリティ	戦略的アプローチ	現在の強み	リスク・対応	参照ページ	
自然	持続可能な原料調達（生薬の栽培化研究等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ツムラ調達方針に基づく持続的な契約栽培</li> <li>●自社管理圃場比率約80%の維持</li> <li>●環境に適応できる持続可能な生薬栽培</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ツムラ生薬 GACP体制</li> <li>●自社管理圃場による品質・量・価格の安定化</li> <li>●産地・産出国の複線化(中国、日本、ラオス等)</li> <li>●環境に適応するための生薬栽培研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予期せぬ天候不順や自然災害等の発生、輸出入等の法規制の対象範囲の変更、想定を超える政治的・経済的状況の変化による調達リスク</li> <li>→十分な在庫量の確保、国内外での生薬調達先の拡大、自社管理圃場の継続拡大、複数の取引先からの購買体制構築</li> <li>●中国からの原料生薬および漢方エキス粉末の輸入に対し、為替相場が大きく変動した場合のリスク</li> <li>→為替動向を考慮しながら為替予約等によるコストの安定化</li> <li>●製品の品質や安全上の問題発生リスク</li> <li>→「ツムラ生薬 GACP ポリシーに関する規程」による原料生薬の徹底管理</li> <li>●自然災害や火災、停電等による生産および物流機能の低下リスク</li> <li>→製造拠点、製品供給拠点の分散化、生産施設への免震・耐震構造の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ P25 注力施策</li> <li>→ P29 特集：「自然と健康を科学する」ツムラの価値創造能力</li> </ul>
	資源の循環利用（水・生薬残渣の再資源化）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●すべての生薬残渣を堆肥・土壌改良剤の原料として有効利用する等、循環型社会の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水・蒸気の循環利用</li> <li>●生薬残渣の再資源化(バイオマス発電燃料、堆肥・土壌改良剤の原料)</li> </ul>		
	生物多様性の保全（森林・土壌・水源の涵養）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様性(生態系・種・遺伝子)の保全</li> <li>●落ち葉が腐葉土となる森林水源涵養機能の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生薬の種苗の保存、栽培化研究</li> <li>●薬木「キハダ」の植栽(北海道夕張市)</li> <li>●「土佐ツムラの森」(高知県高岡郡越知町)での植林活動</li> </ul>		
	気候変動対策（カーボンニュートラルの実現）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネ技術の導入による水やエネルギーの循環効率の向上</li> <li>●樹木系生薬栽培によるCO<sub>2</sub>吸収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネ技術の導入</li> <li>●大規模面積での樹木系生薬の栽培</li> </ul>		
健康	天然物由来の高品質な医薬品・製商品へのアクセス拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常的に漢方製剤や薬食同源製商品を取り入れた生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●卒前・卒直後・卒後の一貫した漢方医学教育支援</li> <li>●幅広い診療科での医療用漢方製剤の処方</li> <li>●業界最大規模の医療機関・薬局への納入実績</li> <li>●中国市場で優位性がある原料生薬(人参)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療費抑制政策等の行政動向に関するリスク</li> <li>→漢方製剤の価値に対する理解の醸成、業界団体と連携し関係省庁等へ提言</li> <li>●医薬品の開発、製造等に関連する国内外の規制の厳格化リスク</li> <li>→医療用漢方製剤のエビデンス構築、医療用漢方製剤の認知向上を図るための活動</li> <li>●予期せぬ副作用の発生リスク</li> <li>→製商品の安全性情報の迅速かつ適切な収集と副作用情報発信強化による適正使用の推進</li> <li>●将来の成長や業績の維持・向上ができないリスク</li> <li>→国内および海外における研究開発計画に関するフィジビリティ（投資回収と事業性評価）の定期的な検証</li> <li>→国内における事業対象領域の拡大（医療用領域を超え、トータルヘルスケア領域を視野に入れた展開）</li> <li>●製品の品質や安全上の問題発生リスク</li> <li>→当該国や地域の品質管理基準の遵守、自社製造品のみならず委託製造品を含むすべての製品について品質を重視する取り組みの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ P49 戦略課題①</li> <li>→ P29 特集：「自然と健康を科学する」ツムラの価値創造能力</li> <li>→ P57 戦略課題④</li> <li>→ P51 戦略課題②</li> <li>→ P3 パーパス起点の価値創造</li> </ul>
	DXの推進による漢方バリューチェーン改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全ロットに対する品質保証体制</li> <li>●漢方製剤ごとの製剤設計に基づくコンピュータ制御</li> <li>●全製造工程におけるロボット技術の開発・導入</li> </ul>			
	漢方の標準治療の拡大とエビデンスの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>●エビデンスに基づいた漢方標準治療の拡大</li> <li>●健康長寿社会実現への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●診療ガイドラインへの収載数および推奨度の向上</li> <li>●漢方医学特有の診断である「証」の科学化</li> <li>●KAMPOmics®をベースとしたレスポnderマーカー研究、AI漢方診断サポートシステムの開発、未病の科学的解明</li> <li>●研究機関やパートナー企業との協働体制</li> </ul>		
	最先端技術による漢方の個別化治療への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人ひとりのライフステージにあった価値の提供</li> <li>●未病の科学化による未病治療の普及への貢献</li> </ul>			